

# 国盗り物語(司馬遼太郎)の史跡をめぐる

2017.02.05

草雲

## 【1】長森城跡 (平城)

場 所：岐阜県岐阜市切通6丁目

築城年：1185年 (地頭・渋谷金丸王)

城 主：美濃守護・土岐頼遠、美濃-尾張-伊勢守護・土岐頼康

備 考：1339年、美濃守護・土岐頼遠は美濃全体を統治するには東濃では不便なため、大富館から長森城に移った。長森城は境川と荒田川に挟まれた場所に位置する。1351年の川手城移転後には尾張守護代の居城となり、弟・土岐直氏が尾張守護代として入った。長森城主には歴代守護の近親者が就いた。



【長森城跡(切通陣屋跡)の石碑】



【境川】

## 【2】川手城跡 (平城)

場 所：岐阜県岐阜市正法寺町 (済美高校)

築城年：1353年

城 主：美濃-尾張-伊勢守護 第3代守護職/土岐頼康-第11代守護職/土岐頼芸

備 考：1353年、土岐頼康が手狭になった長森城から川手城に移った。

1467年、応仁の乱により都から逃げ延びた公家たちは、土岐氏を頼り、川手に移住した。これにより、川手の地は都文化(詩歌、蹴鞠、能楽など)の花を咲かせることになった。「西の山口(大内氏)、東の川手(土岐氏)」と言われた。川手城は長森城と同じで境川と荒田川に挟まれた南へ8kmの場所に位置する。川手城を居城としていた守護・土岐政頼は1532年、鷺山城の土岐頼芸(政頼の弟)に攻められ、越前へ逃亡し、土岐頼芸が守護職に就き、居城を川手城に移した。



【川手城跡の石碑】



【川手城跡の側を流れる新荒田川】

# 国盗り物語(司馬遼太郎)の史跡をめぐる

2017.02.05  
草 雲

## [3] 福光城跡 (平城)

場 所：岐阜県岐阜市長良福光

築城年：1509年

城 主：美濃守護・土岐政房

備 考：それまでの美濃の中心は川手城に置かれていたが、福光城築城により、守護所の機能は長良川を越え、現在の長良川スポーツプラザ付近に移った。土岐政房の長男政頼は弟の頼芸と家督争いをしたが、朝倉氏の武力援助を受けた政頼が家督を継承した。しかし、政房没後の1525年に頼芸が挙兵、福光城を武力占領し、政頼を追放した。家督を奪い取った頼芸は1532年に枝広館に移ったため、福光は短命に終わった。



【福光城跡の蟬丸公園】



【福光城跡から金華山を望む】

## [4] 枝広館跡 (館)

場 所：岐阜県岐阜市長良

築城年：1532年

城 主：美濃守護・土岐頼芸

備 考：政房没後の1525年に頼芸が挙兵、福光城を武力占拠し、政頼を追放した。家督を奪い取った頼芸は1532年に枝広館に移った。



【枝広館跡から金華山を望む】



【枝広館跡の岐阜公園】

# 国盗り物語(司馬遼太郎)の史跡をめぐる

2017.02.05  
草 雲

## [5] 鷲山城跡 (山城)

場 所：岐阜県岐阜市鷲山

築城年：1185年－1190年

城 主：土岐頼武、土岐頼芸、齋藤道三

備 考：1525年に頼武の弟・土岐頼芸が鷲山城を占拠したが、翌年迄に頼武は鷲山城を奪い返した。この戦いは1530年まで続いたが、長井長弘や齋藤道三の父に支援された頼芸が勝利した。頼武は大桑城へ入った。1532年に頼芸は鷲山城から枝広館に移った。また、1535年、齋藤道三と小見の方との間に濃姫が生まれた。1548年、道三が家督を息子の齋藤義龍に譲ると鷲山城に隠居した。1549年、濃姫は鷲山城から尾張国の織田信長に嫁いだので、「鷲山殿」と呼ばれた。



【山頂の鷲山城跡】



【鷲山城跡から岐阜城を望む】

## [6] 大桑城跡 (山城)

場 所：岐阜県山県市大桑洞古城山

築城年：1250年

城 主：大桑又三郎、土岐頼武、土岐頼芸

備 考：1535年に長良川の洪水が守護館の枝広館を襲った。土岐氏最後の美濃守護の頼芸は大桑城へ移った。1543年に齋藤道三は大桑城を攻めた。朝倉氏や織田氏の仲介で和議が成立するが、1552年に再度道三が攻めて、頼芸が退去し土岐氏は滅亡、大桑城は廃城となった。



【大桑城本丸跡からの展望】



【大桑城跡の古城山を望む】

# 国盗り物語(司馬遼太郎)の史跡をめぐる

2017.02.05  
草 雲

## 【7】 岐阜城跡 (山城)

場 所：岐阜県岐阜市 (金華山)

築城年：1201年

城 主：二階堂行政、齋藤道三、齋藤義龍、齋藤龍興、織田信長

備 考：15世紀中頃、美濃守護代・齋藤利永が修復して居城。1525年、齋藤氏家臣の長井長弘と長井新左衛門尉が謀反を起こし、長井氏の支城となる。1535年、新左衛門尉の子、長井新九郎規秀(齋藤利政、後の齋藤道三)が城主となる。1541年、利政は守護の土岐頼芸を追放。1547年、織田信秀、頼芸派の家臣と城下まで攻めるも大敗。1554年、利政、城と家督を嫡子の齋藤義龍に譲り、道三と号する。1556年、義龍、長良川の戦いにより道三を討ち取る。1561年、義龍の急死により、齋藤龍興が13歳で家督を継ぎ、城主となる。同年6月、十四条の戦いに勝利した織田信長が稲葉山城を攻めるも大敗。1564年、齋藤氏の家臣・竹中重治と安藤守就が造反して挙兵。稲葉山城を攻める。龍興らは城を捨てて鶉飼山城へ逃げ、竹中らが城を半年間占領する。

1567年、織田信長が西美濃三人衆の内応により稲葉山城下に進攻。龍興は城を捨てて長良川を舟で下り、伊勢長島へ逃亡。同年、信長は本拠地を小牧山城から稲葉山に移し、城と町の名を「岐阜」と改めた。この頃から信長は「天下布武」の朱印を用いた。1576年、信長は嫡子・織田信忠を岐阜城の城主とし、織田家の家督及び美濃、尾張の2ヶ国を譲る。



【岐阜城から長良川と鷺山城を望む】



【信長像と金華山頂の岐阜城】



【金華山麓の信長居館跡】



【信長居館跡への門】



【金華山頂の岐阜城の遠景】

# 国盗り物語(司馬遼太郎)の史跡をめぐる

2017.02.05  
草 雲

## [8] 鵜沼城跡 (連郭式山城)

場 所：岐阜県各務原市鵜沼南町7-23

築城年：不明

城 主：大沢治利

備 考：1429年～1441年頃に大沢治利によって築かれたと云われる。大沢治利が和泉国から美濃に移ってきて城を築いたと云う。

大沢氏は斎藤道三などに従い、1564年に織田信長は木下藤吉郎に鵜沼城の攻略を命じるが、鵜沼城主・大沢正重は強く抵抗。藤吉郎の調略によって正重は降伏するが、信長は降伏した正重の変心を恐れ殺害を企てた。しかし、藤吉郎の計らいで正重は逃がされたと云われる。その後、鵜沼城は犬山城主の池田恒興に与えられた。小牧・長久手の戦いの中、1584年、秀吉勢の池田恒興は、東美濃へ向かうと見せかけて旧領である鵜沼城へ入城し、犬山城を攻略した。



【木曾川の犬山側岸から望む】



【木曾川の鵜沼側岸から望む】

## [9] 聖徳寺跡

場 所：愛知県一宮市富田大堀 413-5

創建年：1517年

創建者：閉善

備 考：1553年（一説には1549年）に斎藤道三と織田信長が会見したお寺。南北873m、東西327mという広大な規模で周囲には堀をめぐらせていた。この寺は洪水や戦禍であちこちに移転した。信長に濃姫を嫁がせた道三は、大うつけと呼ばれた信長と会見したいと考えた。会見場所は、美濃と尾張の中間点近くの木曾川沿いにあったこの寺（聖徳寺）で行った。



【聖徳寺跡の石碑】



【バス停「聖徳寺跡」になっている】

# 国盗り物語(司馬遼太郎)の史跡をめぐる

2017.02.05  
草 雲

## 【10】可児明智城跡 (連郭式山城)

場 所：岐阜県可児市瀬田長山

築城年：1342年

築城者：明智頼兼

備 考：1342年、美濃源氏の流れをくむ土岐頼兼が「明智」と改名してこの城を築き、その後約200年の間、明智氏代々の居城として栄えた。別名、長山城または明智長山城と呼ばれている。

土岐美濃守光衡より五代目にあたる頼清の次男、明智次郎頼兼が明智城を築城し、明智光秀の代まで居城された。光秀生誕の地とされる。

この城は1556年、稲葉山城主・斎藤義龍の攻撃を受け、明智城代・明智光安は870余人を集めて籠城した。しかし義龍軍は3700余の軍勢で2日間にわたり攻撃した。光安は光秀に明智家再興を託し弟光久と自刃し、妻妾も落城前に自刃した。



【明智城本丸跡】



【城跡からの北方向の展望】

## 【11】苗木城跡 (山城)

場 所：岐阜県中津川市苗木

築城年：1526年

築城者：遠山一雲入道昌利

備 考：1526年、遠山一雲入道昌利は福岡植苗木広恵寺城から苗木高森に館を移す。

1560年、苗木城主・勘太郎は桶狭間の戦いに出陣する。

1565年、苗木城主・勘太郎の娘（織田信長の養女）は武田勝頼（武田信玄の二男）に嫁ぐ。

司馬遼太郎の『国盗り物語第四巻』に、「美濃、といっても木曾に近いあたりの苗木に遠山勘太郎という城主がいる。苗木とは、現今、観光地の恵那峡あたりである。遠山氏は南北朝以来の名族で、近国で知らぬ者はいない。中略 この遠山家に、死んだ道三の正室小見の方（可児明智氏）の妹が嫁いでいる。遠山勘太郎の妻女である。それに雪姫という娘がある。濃姫のいとこ、ということで、信長は美濃経略の初期に遠山氏に工作し、見方にひき入れ、その雪姫を養女として尾張にひきとっていた。」とある。



【苗木城跡のある高森の遠景】



【苗木城跡の近景】

# 国盗り物語(司馬遼太郎)の史跡をめぐる

2017.02.05  
草 雲

## [12] 清洲城跡 (平城)

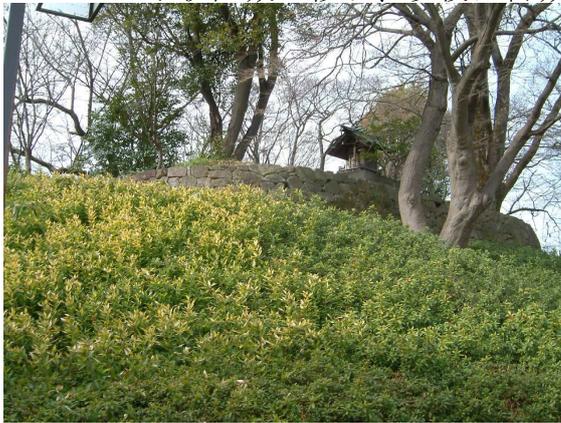
場 所：愛知県清須市一場

築城年：1405年

築城者：斯波義重

主な城主：斯波氏、織田氏

備 考：1405年、尾張・遠江・越前守護の管領斯波義重によって築城。当初は、尾張守護所である下津城の別郭として建てられたが、1476年に守護代織田家の内紛により下津城が焼失し、1478年に守護所が清須に移転することで尾張国の中心となった。一時期、織田信秀が清須奉行として居城。織田信秀が古渡城に拠点を移すと守護代織田信友が入城。1555年、織田信長と結んだ織田信光によって信友が殺害され、以降、信長が那古野城から移って大改修を加えた後、本拠として居城した。信長はこの城から桶狭間の戦いに出陣するなど、約10年間清須を居城とした。1562年には、信長と徳川家康との間で同盟(清須同盟)がこの城で結ばれた。1563年、信長は美濃国斉藤氏との戦いに備えて小牧山城に移り、以後は番城となった。



【清洲城本丸跡】



【清洲城の堀の役割をした五条川】

## [13] 岩倉城跡 (平城)

場 所：愛知県岩倉市下本町

築城年：1479年

築城者：織田敏広

主な城主：織田氏、岩倉織田氏

備 考：1479年、織田伊勢守家当主の織田敏広が築城。この城を拠点として織田伊勢守家(岩倉織田氏)は尾張上四郡を支配し、尾張守護所が置かれた清洲城を拠点として尾張下四郡を支配した織田大和守家(清洲織田氏)に対し、清洲城と並び、重要な城であった。



【岩倉城跡の石碑】



【岩倉城の堀の役割をした五条川】

# 国盗り物語(司馬遼太郎)の史跡をめぐる

2017.02.05  
草 雲

## [14] 下津城跡（おりづじょう）（平城）

場 所：愛知県稲沢市下津高戸町

築城年：室町時代中期

築城者：不明

主な城主：斯波氏、織田氏

備 考：1400年頃、尾張守護に補任された斯波義重が、下津城に尾張国の守護所を置いたといわれる。1432年に第6代将軍・足利義教が富士遊覧の際に宿泊したといわれる。応仁の乱が起ると、尾張国でも守護代織田氏が斯波氏の家督争いに介入して、二家に分裂して抗争した。このとき、守護代織田家の嫡流で元々守護代職を世襲していた「織田伊勢守家」当主の織田敏広が入城し、居城した。1476年、敏広は守護代織田家の分家筋の「織田大和守家」当主の織田敏定と戦って敗れた。この際に下津城は焼失したといわれる。その後、尾張守護所はその別郭であった清洲城へ移った。また、下津城を迫られた織田敏広は岩倉城を築いて居城した。



【下津城跡の石碑】



【下津城の堀の役割をした青木川】

## [15] 小牧城跡（平山城）

場 所：愛知県小牧市堀の内 1-1

築城年：1563年

築城者：織田信長

主な城主：織田氏、徳川氏

備 考：織田信長は、1560年の桶狭間の戦いに勝利すると、その3ヶ月後から美濃攻めを開始した。1562年に徳川家康と清洲城において清洲同盟を結び、尾張国東側の脅威を消滅させた。これにより、信長は全力で美濃国を攻める体制を整えるために、美濃国に近い尾張北方の小牧山への本拠地移転が実現可能になった。早速、丹羽長秀を奉行として、広大な濃尾平野の中に孤峰を保つ小牧山山頂に城を築き、1563年には主要兵力を小牧山城に移した。



【小牧山山頂からの展望】



【山麓の信長屋敷跡】

# 国盗り物語(司馬遼太郎)の史跡をめぐる

2017.03.01  
草 雲

## [16] 常在寺

場 所：岐阜県岐阜市梶川町9

築城年：1450年

建立者：斎藤妙椿

宗 派：日蓮宗

備 考：斎藤家の菩提寺。斎藤道三とその父・長井新左衛門尉が二代にわたり美濃国を制する拠点とした寺。正式名は鷲林山常在寺(じゅりんざん じょうざいじ)。日蓮宗、京都妙覚寺の末寺。室町時代の1450年、土岐家の守護代として権力を持ち、当時、事実上、美濃を支配していた斎藤妙椿が建立。後に、道三が菩提寺とし、道三以後三代の菩提寺となった。司馬遼太郎の「国盗り物語」では、道三(法蓮房)が京の妙覚寺で共に修行した友人の常在寺の住職(南陽房)を訪ねるところから、美濃の国盗りが始まっている。



【常在寺】



【常在寺から金華山を望む】

## [17] 崇福寺

場 所：岐阜県岐阜市長良福光 2403-1

創建年：1469年

開 基：土岐成頼、斎藤長弘

宗 派：臨済宗妙心寺派

備 考：1567年、織田信長が斎藤龍興を亡ぼして美濃に入ると、崇福寺を織田家の菩提寺として保護した。1582年、本能寺の変により織田信長と織田信忠が亡くなると、二人の遺品は信長の側室のお鍋の手で岐阜城から崇福寺に持ち込まれ、織田信長・信忠廟所に埋められたといわれる。また、「心頭を滅却すれば火も自ずから涼し」と言ったことで有名な快川紹喜が住職を務めたことのある由緒あるお寺である。



【崇福寺】



【崇福寺から金華山を望む】

# 国盗り物語(司馬遼太郎)の史跡をめぐる

2017.03.03  
草 雲

## 〔18〕 道三塚

場 所：岐阜県岐阜市道三町

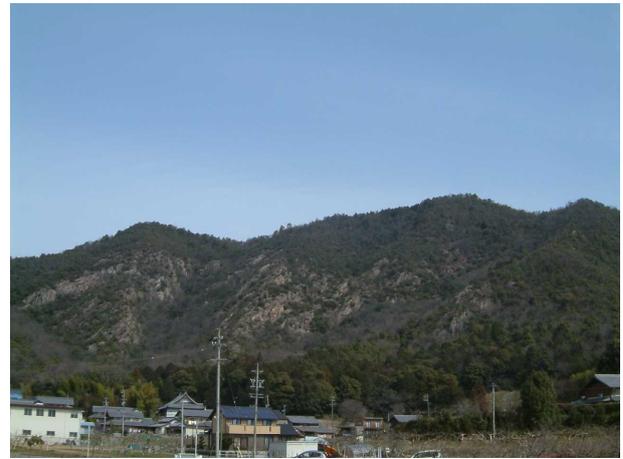
築城年：1837年

建立者：常在寺第27世 日椿上人

備 考：斎藤道三は、1556年に嫡子の斎藤義龍と戦った（長良川合戦）が、数に劣る道三は敗れ、城田寺（きだいじ）に逃れようとするところを討ち取られた。鷲山の道三は兵を招集したが多くは義龍側に参じた為一戦して破れ、城田寺城に退き立て籠もった。城田寺城から討って出た道三は長良川畔で討死した。道三の遺体は宗福寺の西南に埋葬されたが、長良川の洪水により、たびたび流された。その後、1837年に常在寺の第27世、日椿上人がこの地に塚を移し、現在の石碑を建てた。



【道三塚】



【城田寺城のあった城ヶ峰を望む】

## 〔19〕 桶狭間古戦場伝説地（国指定史跡）

場 所：愛知県豊明市栄町南館11

備 考：今川義元は約2万5000人の軍勢を率いて1560年に駿府を出発した。岡崎、そして沓掛城に入り、尾張への攻撃の準備をした。

織田信長は未明に清洲城を出陣、その際に幸若舞の敦盛を舞った。清洲を出るときは、主従わずかに6騎、途中輪乗りをかけて人数を待ち、熱田神宮に戦勝祈願をした頃には、1000人余りとなり、合戦のときには軍勢3000人ほどになった。今川軍は難なく丸根・鷲津を攻め落とし、本陣は桶狭間の松林に休憩し、戦況を聞きつつ昼食をとっていたが、そのとき天候が急変して夕立になった。信長は狼狽する義元勢をめがけ、一挙に本陣めがけて切り込んだ。この戦いの死者は、今川軍2500人、織田軍830人ほどで、要した時間は2時間という一瞬の出来事であった。



【桶狭間古戦場跡】



【信長軍が駆け降りた丘】

# 国盗り物語(司馬遼太郎)の史跡をめぐる

2017.03.05  
草 雲

## [20] 鵜飼山城跡 (山城)

場 所：岐阜県岐阜市御望村山（御望山の山頂）

築城年：戦国時代

建立者：村山 芸重

備 考：鵜飼山城が築かれた御望山は、鵜飼い荘として古くからあった鵜飼村の背後に位置する。現在城跡には遺構は残されていない。斎藤道三と土岐氏の重臣・村山芸重との争いや、竹中半兵衛に稲葉山城を追われた斎藤龍興が最初に逃げ込んだ城で、歴史にたびたびその名が登場する。



【鵜飼山城のあった御望山】



【岐阜大学病院から御望山を望む】

## [21] 古渡城跡 (平城)

場 所：愛知県名古屋市中区橋2-8

築城年：1534年

築城者：織田信秀

主な城主：織田信秀

備 考：古渡城は1534年に織田信秀が東南方向の備えのために築城する。信秀は今川氏豊（今川義元の弟）から奪った那古野城を嫡男の吉法師（織田信長）に譲り、古渡城を拠点とした。古渡は海が近く交通の便も良く、那古野城の備えとして重要な地であった。東西140m、南北100mの平城で、四方を二重の堀で囲まれていた。1546年に信長は古渡城で元服する。信長の妹のお市は古渡城で生まれたという説がある。1548年、信秀は末森城を築いて移ったため、古渡城はわずか14年で廃城となった。



【古渡城址の石碑】



【隣接する真宗大谷派名古屋別院】

# 国盗り物語(司馬遼太郎)の史跡をめぐる

2017.03.11  
草 雲

## [22] 末森城跡 (平山城)

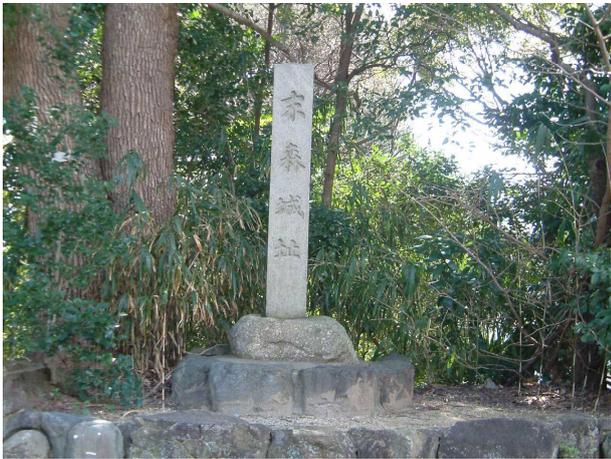
場 所：愛知県名古屋市千種区城山町2

築城年：1548年

築城者：織田信秀（信長の父）

主な城主：織田信秀、織田信行（信長の弟）

備 考：1548年、織田信秀が築城した。三河国の松平氏や駿河国の今川氏などの侵攻に備えたもので、織田信光（信秀の弟）の守山城と連携して防衛した。信秀は、末森城主に織田信行（信長の弟）を充てていたが、自らが古渡城から移り、1551年にこの末森城で死去したと伝えられる。1556年、信行は林道勝、柴田勝家などと共に信長に反旗を翻すが破れ、1557年再び反旗を企て、信長に清洲城で謀殺された。末森城は東西200m、南北160mの平山城で、周囲は二重堀で囲まれていた。現在でも、空堀跡などの遺構がよく残っていて見応えがある。



【末森城址の石碑】



【堀の跡】

## [23] 那古野城跡 (なごのじょう) (平城)

場 所：愛知県名古屋市中区二の丸1

築城年：1517年

築城者：今川氏親（今川義元の父）

主な城主：今川氏豊（今川義元の弟）、織田信秀、織田信長

備 考：1532年に織田信秀は今川氏豊からこの城を奪い、1534年に信長にこの城を預け古渡城に移った。信長はこの城で生まれ、始めて城主となった城である。信長は1555年に清洲に移るまでこの城に居城した。名古屋城二之丸が那古野城の故地とされているが遺構はほとんど残っていない。



【那古野城址の石碑】



【那古野城跡の名古屋城二の丸】

# 国盗り物語(司馬遼太郎)の史跡をめぐる

2017.03.20  
草 雲

## [ 2 4 ] 加納城跡 (沓井城) (平城)

場 所：岐阜県岐阜市加納丸の内

築城年：1445年

築城者：斎藤利永 (美濃守護代)

主な城主：斎藤利永

備 考：守護代の斎藤利永が 1445 年に川手城の西北約 500 mのこの地に城を築いた。これが中世加納城である。守護館の川手城の至近に居城を築くことで守護土岐氏の近臣であることを喧伝するとともに、その防衛を担うものであった。城の形態は方形で堀と土塁で囲まれた居館城であった。その後、斎藤氏が居城として代を重ねたが、斎藤道三が岐阜城に居城を定め、1542年に守護土岐頼芸を美濃から追放すると、この加納城も廃城同然のものとなった。この中世加納城の位置は、およそ現在の加納城本丸と一致すると考えられる。



【加納城本丸跡】



【加納城跡の側を流れる新荒田川】

## [ 2 5 ] 船田城跡 (平城)

場 所：岐阜県岐阜市水主町1 (かこまち1丁目)

築城年：室町時代

築城者：不明

主な城主：石丸利光 (美濃守護代斎藤氏に仕える)

備 考：船田城は美濃国守護土岐氏の川手城の支城で、石丸利光の居城であった。守護土岐成頼は長子政房を廃して妾腹の末子の元頼を跡継ぎにしようと、石丸利光と謀った。石丸利光は守護代斎藤利国を殺して謀を進めようとしたが、逆に斎藤利国に露見した。やがて斎藤利国の居城加納城と石丸利光の居城船田城との間で戦い起こった。利光は破れ、船田城を焼いて近江六角氏に逐電した。



【船田城跡】



【船田城跡の側を流れる新荒田川】

# 国盗り物語(司馬遼太郎)の史跡をめぐる

2017.03.20  
草 雲

## 【26】勝幡城跡（しよばたじょう）（平城）

場 所：愛知県稲沢市平和町城之内

築城年：1504年

築城者：織田信定（織田信長の祖父）

主な城主：織田信定、織田信秀

備 考：織田信定（織田信長の祖父）は勝幡城を築き津島神社の門前町として栄えた津島を押さえていた。嫡男信秀（織田信長の父）は1532年頃家督を継ぐと豊かな経済力を背景に勢力を広げ、1532年頃に今川氏豊の居城であった那古野城を攻略して移り、勝幡城には城代が置かれた。1534年に織田信長（信秀の嫡子）はこの勝幡城で生まれたと「尾州古城志」に記されている。那古野城という説もあるが、近年、研究家の間では勝幡城説が有力になってきている。勝幡城は、二重の堀で囲まれた館城で、三宅川が外堀の役目をしていた。



【勝幡城址の石碑】



【勝幡城跡】

## 【27】守山城跡（平山城）

場 所：愛知県名古屋守山区市場（宝勝寺）

築城年：1521年

築城者：松平信定

主な城主：松平信定、織田信光（織田信秀の弟）

備 考：東西に約58メートル、南北に約51メートルの平山城で、四方に掘がめぐらされていた。織田信光（織田信秀の弟）が居城した。1535年に松平清康（徳川家康の祖父）が、尾張攻略のために大軍を率いて守山城周辺に進軍したが、陣中で家臣に殺害された。清康は13歳にして家督を継ぐとすぐに頭角を現し、瞬く間に三河統一を成し遂げた。しかし早25歳にしてここ守山で亡くなった。守山城は桶狭間の戦いの後、廃城になった。



【守山城址の石碑】



【守山城跡】

# 国盗り物語(司馬遼太郎)の史跡をめぐる

2017.08.07  
草 雲

## [28] 一乗谷朝倉氏遺跡 (山城)

場 所：福井県福井市城戸ノ内町 28-37

築城年：南北朝時代

築城者：朝倉氏

主な城主：朝倉氏、桂田長俊

備 考：戦国時代に一乗谷城を中心に越前国を支配した戦国大名朝倉氏の遺跡。一乗谷城(山城)と山麓の城下町(朝倉氏および家臣の居館)からなる。一乗谷の南北に城戸を設け、その間の長さ約1.7kmの「城戸ノ内」に、朝倉館、武家屋敷、寺院、職人や商人の町屋が計画的に整備された道路の両面に立ち並んでいた。一乗谷城は、朝倉氏によって当主館の東側背後、西方に福井平野を一望できる標高473mの一乗城山に築城された中世山城である。15世紀前半には築かれていたと考えられる。一度も戦闘に使用されることなく廃城となった。



【朝倉義景館跡の唐門】



【朝倉義景館跡の堀と土塁】

## [29] 金ヶ崎城跡 (山城)

場 所：福井県敦賀市金ヶ崎町

築城年：源平合戦時代

築城者：平通盛

主な城主：氣比氏、甲斐氏、朝倉氏

備 考：敦賀市北東部、敦賀湾に突き出した海拔86mの小高い丘(金ヶ崎山)に築かれた山城。源平合戦の時、平通盛が木曾義仲との戦いのためにここに城を築いたのが最初と伝えられる。現在でも月見御殿(本丸)跡、木戸跡、曲輪、堀切等が残っている。

国盗り物語では、朝倉氏を頼り金ヶ崎城に身を置いた足利義昭と一乗谷の朝倉義景との間を行き来する明智光秀の様子が記述されている。



【金ヶ崎城跡】



【月見御殿からの展望】

# 国盗り物語(司馬遼太郎)の史跡をめぐる

2017.08.15  
草雲

## 【30】 武田氏館跡 (連郭式平城)

場 所：山梨県甲府市古府中町 2611

築城年：1519年

築城者：武田信虎

主な城主：武田氏、徳川氏、豊臣秀勝、浅野長政

備 考：甲斐国守護武田氏の居館は、躑躅ヶ崎館（つつじがさきやかた）とも呼ばれ、戦国大名武田氏の領国経営の中心地であった。現在、跡地には武田神社があり、「武田氏館跡」として国の史跡に指定されている。戦国時代に築かれた甲斐源氏武田氏の本拠地で、居館と家臣団屋敷地や城下町が一体となっている。信虎、信玄、勝頼3代の60年余りにわたって府中として機能した。信玄時代の武田氏は大きく所領を拡大させ、信濃、駿河、上野、遠江、三河などを勢力下に収めたが、本拠地は一貫して要害山城を含む躑躅ヶ崎館であった。



【武田氏館跡の武田神社】



【武田氏館跡の土塁と水堀】

## 【31】 坂本城跡 (平城、水城)

場 所：滋賀県大津市下坂本 3

築城年：1571年

築城者：明智光秀

主な城主：明智光秀、丹羽長秀、浅野長政

備 考：坂本城は、琵琶湖の南湖西側にあり、大津市の北郊に位置する。西側には比叡山の山脈があり、東側は琵琶湖に面していることから、天然の要塞を具えた地であった。坂本は比叡山の物資輸送のための交通の要所で港町として繁栄していた。1571年、比叡山焼き討ちの後、織田信長は明智光秀に近江国滋賀郡を与え、京と比叡山の抑えとして坂本城の築城を命じた。宣教師のルイス・フロイスは、著書『日本史』に「豪壮華麗で安土城に次ぐ名城」と記している。



【坂本城跡】



【坂本城跡から琵琶湖を望む】

# 国盗り物語(司馬遼太郎)の史跡をめぐる

2017.08.20  
草 雲

## [3 2] 小谷城跡 (梯郭式山城)

場 所：滋賀県長浜市湖北町伊部

築城年：1516年

築城者：浅井亮政

主な城主：浅井氏、羽柴秀吉

備 考：城跡は国の史跡に指定されている。日本五大山城の一つに数えられる。浅井長政とお市の方との悲劇の舞台として語られる城である。

戦国大名浅井氏の居城で、堅固な山城として知られたが、織田信長に4年間攻められ落城した。その後、北近江の拠点長浜城に移され廃城となった。1570年、小谷城から南に5キロ程の地点で繰り広げられた姉川の戦いでは、浅井・朝倉連合軍と織田・徳川連合軍が激突し、織田軍が勝利したものの、信長は小谷城の堅固さを考慮して城攻めを断念、姉川南岸に横山城を築城、有力武将の木下秀吉を配置し、浅井氏に対する付城（前線基地）とした。



【小谷城が築かれた山】



【小谷城が築かれた山】

## [3 3] 観音寺城跡 (山城)

場 所：滋賀県近江八幡市安土町

築城年：1467-1487年

築城者：六角氏頼

主な城主：佐々木氏、六角氏

備 考：城跡は国の史跡に指定されている。近江源氏の佐々木氏、後の近江守護六角氏の居城である。総石垣で、安土城以前の中世城郭においては特異な点とされる。周辺には琵琶湖や大小の湖、美濃から京へ至る東山道、長光寺集落から伊勢へ抜ける八風街道があり、それらを管制できる要衝に位置した。

応仁の乱では3度、観音寺城の攻城戦が展開された。

1568年、織田信長が足利義昭を擁して上洛の大軍を興すと六角氏は敵対したが、六角義賢・義治父子は観音寺城から逃げ無血開城した。

2006年、日本100名城に選定された。



【観音寺城虎口跡】



【観音寺城跡山頂からの展望】

# 国盗り物語(司馬遼太郎)の史跡をめぐる

2017.08.15  
草 雲

## 【34】安土城跡 (山城)

場 所：滋賀県近江八幡市安土町下豊浦

築城年：1576年

築城者：織田信長

主な城主：織田氏、明智氏

備 考：この城を築城した目的は、岐阜城よりも当時の日本の中央拠点であった京に近く、琵琶湖の水運も利用できたため利便性があり、加えて北陸街道から京への要衝に位置していたことから、「越前・加賀の一向一揆に具えるため」あるいは「上杉謙信への警戒のため」などと推察されている。城郭の規模、容姿は、太田牛一や宣教師の記述にあるように天下布武を象徴し、一目にして、人々に知らしめるものであり、山頂の天守に信長が起居、その家族も本丸付近で生活し、家臣は山腹、城下の屋敷に居住していたとされる。



【安土城本丸跡】



【安土城本丸へと続く石段】

## 【35】長浜城跡 (平城)

場 所：滋賀県長浜市公園町

築城年：1573年

築城者：羽柴秀吉

主な城主：羽柴氏、柴田氏、山内氏

備 考：1573年に羽柴秀吉が浅井長政攻めの功で織田信長から浅井氏の旧領を拝領した際、琵琶湖から離れた小谷城を嫌い、当時今浜と呼ばれていたこの地を信長の名から一字拝領し長浜に改名した。小谷城で使われていた資材や、竹生島に密かに隠されていた材木などを使用し築城した。

湖水に石垣を浸し、城内の水門から直に舟の出入りができた。城下町は小谷城下からそのまま移した。秀吉が最初に築いた居城で、秀吉の城下町経営の基礎を醸成した所でもある。



【長浜城跡】



【長浜城から琵琶湖を望む】

# 国盗り物語(司馬遼太郎)の史跡をめぐる

2018.09.02  
草 雲

## 【36】立政寺（りゅうしょうじ）

場 所：岐阜県岐阜市西荘3丁目7-11

解 説：美濃など東海地方の中世浄土宗の一大中心地として栄えた寺である。  
明智光秀と細川藤孝の仲介により、織田信長が戦国最後の将軍となった足利義昭を迎えた歴史上の重要な舞台にもなった。  
寺内には、絵に描かれた阿弥陀如来像など古い絵画類も多数所蔵されている。



【立政寺山門】



【立政寺地内】